

会 議 記 録 (概要)

会 議 名	令和2年度第2回三田市立図書館運営評価委員会
日 時	令和2年11月16日(月) 18時15分から19時48分
場 所	三田市役所2号庁舎2階2201会議室
出席委員	馬込委員、有川委員、井上委員、尾上委員、佐藤委員、富岡委員、安武委員
指定管理者	図書館流通センター関西支社 大名門支社長代理、東図書館長、住本分館長
事 務 局	西田地域創生部長 印藤同部市民協働室長 (以下、部・室名を省略) 横溝文化スポーツ課長、森鼻同課係長、山本同課主任
傍 聴 者	なし
添 付 資 料	次第、資料1～5

会議概要

1 開会

会議の招集・成立について

定員の過半数を超える出席につき成立

2 あいさつ

西田地域創生部長あいさつ

3 報告事項

(1) 令和2年度上半期の事業報告について【資料1】

館長

◎総括

①入館者数、貸出冊数

前年比：6－9月は、入館者数(73%)、貸出冊数(87%)

半期では、入館者数(52%)、貸出冊数(62%)

マイナス要因としては、4月と5月の新型コロナウイルス感染症(以下、「コロナ」という)対策による休館が影響、6月以降も影響が残った。

②電子図書館

閲覧回数：前年比5月までは、303%

半期では、215%増

電子図書館の閲覧数は、大幅な利用増が続いているが、特に4、5月のコロナ対策としての休館中に利用が増加。

◎経営目標推進結果

①知と憩いの拠点

【目標1】地域の「知と憩いの拠点」を担う施設であることを認識し、社会教育、生涯学習の支援を意識的に行う。

- ・定例事業、企画事業の再開 ⇒ 郷土史講座（2回）、ネット図書館入門講座実施。
 - ・調べる学習の取り組み実施 ⇒ 三田市地域コンクール募集、学習教室（6回）
 - ・ハニーFM「さんだ『学び×体験』ナビ」に出演 ⇒ 調べる学習の学習教室を紹介した。
 - ・ボランティア活動募集(新規) ⇒ 配架ボランティア3名、修理ボランティア3名
- ②高齢者や障害者が利用しやすい環境づくり
- 【目標2】高齢者や障害者が利用しやすい環境を実現する。
- ・電子図書館コンテンツの充実 ⇒ 265コンテンツ増。
 - ・利用者講習会の開催 ⇒ マンツーマンでわかりやすかったと好評。
 - ・がん情報コーナー設置 ⇒ 情報弱者に健康情報を提供する、都立がんセンターの取組みを紹介。
 - ・タブレットを使った対面音訳の準備 ⇒ コロナ対策で休止している対面音訳の代替手段として、図書館内での実証実験終了。
 - ・図書館だより等、図書館刊行物のユニバーサルデザインフォント化。
- ③子どもの読書推進、子育て支援
- 【目標3】子どもの読書推進、子育て支援を目的とした自主事業を積極的に展開する。
- ・こわ〜いおはなし会など、おはなし会を47回開催した。
 - ・1日図書館員（2名）の受け入れ。
 - ・昔遊び教室、子どもミニ紙芝居講座、青空紙芝居等の実施。
 - ・J:COMの番組「ジモト応援！兵庫つながるNews」に出演 ⇒ 夏の子どもの行事紹介。
 - ・小・中学生のための調べる学習教室開催（4回）
 - ・パスファインダーの作成 ⇒ 調べ学習の入り口として、気軽に図書館で調べることを提案する冊子、小中学生の子どもに興味を持ってもらいたい。
- ④図書館員の資質及び業務水準の向上
- 【目標4】図書館員の資質及び業務水準の向上を目的とした研修を計画的に実施する。
また第三者の実施する研修にも図書館員を積極的に参加させる。
- ・認知症サポータースタッフの研修 ⇒ スタッフ100%取得済
 - ・レファレンス研修等、熟練度別の研修受講（計8名）
- ⑤移動図書館業務
- 【目標5】定期巡回（毎週金曜日）以外に、移動図書館「ひだまり」号を活用したアウトリーチ事業の充実を図る。
- ・移動図書館の出張サービス ⇒ 1回出動：あかしあ台小学校児童クラブ、第二児童クラブ
- ⑥その他
- ・学校連携事業として、初任者研修2名受入
 - ・30周年記念の前倒し行事として「30文字の貸出展示」を実施。 ⇒ 中身が見えない袋に本を入れ、袋に貼った本の冒頭30文字のポップだけで、ストーリーを推理して借りてもらう企画展示。コロナ対策の一つとして短時間で本を選びやすいよう

展示に力を入れた。

- ・コロナ対策としての青空図書館のサービスは利用者に喜んでいただけた。

(1) 新型コロナウイルス感染症の利用状況への影響【資料2】

館長 7月からイベントを再開したことにより、概ね全ての図書館サービスを実施でき
ており、10月時点では、貸出者数、貸出冊数は、例年並みに戻りつつある。

- ・上半期では、前年度比で入館者数52%、貸出者数63%、貸出冊数62%。

貸出に比べ、入館者数の戻りがにぶく、短時間の利用を呼び掛けていることもあり、
滞在型の利用の減少が影響していると考えられる。

電子図書館の利用は5月が前年比337%でピークであり、10月も高い利用状況とな
っている。

感染症予防対策として、下記を実施している。

- ・手指消毒、マスク着用の協力を呼びかけ
- ・滞在時間1時間以内の協力を呼びかけ
- ・距離をとった閲覧席の配置
- ・定期的な換気、カウンター等の消毒
- ・カウンターへの飛沫防止シートの設置
- ・講演会、おはなし会等のイベントは、距離を確保できる定員（コミュニティルーム
で23人）を設けながら実施
- ・イベント参加者の検温
- ・視覚障害者の対面朗読について、リモートによる再開を準備中

委員長 対面音訳の再開に向け行った、タブレットを使う実証実験の結果はどうだった
か。

館長 使えると判断した。

委員 4、5月の休館以降の利用者数の回復が著しい。前年度比で少なくなったという
結果の報告よりも、回復の推移を分析して今後の対策に生かされたい。

委員長 未来志向で進めるべき、次項の事業計画の報告でお聞きしたい。

委員 利用者講習会には何名ほど参加されたか。

館長 1回開催して3人の参加があった。

委員 私も興味があるので、講習会の存在を知れば参加したいが、周知方法は。

館長 広報紙、図書館だより、館内ポスター、ホームページでお知らせしている。

委員長 利用者講習会とは電子図書館の講習会のことか。またリモートで実施したのか。

館長 内容は電子図書館とインターネット予約の方法について説明するもので、ご来館
いただいたの開催であった。

委員 10月に電子図書館を使ってみた。最初はログイン方法が分からず、分館に問い合
わせて親切に教えてもらった。自宅でタブレットを使って本が読めるのは便利だと感
じたので、もっと多くの人に知ってもらいたい。11月に分館を訪れたら、本の作者名
の表示の文字が大きく、とても見やすくなっていた。30周年記念しおりもお土産に配
られており、短期間でいろいろ改善されていることは評価できる。

委員長 文字を大きくした理由は。

分館長 (コロナ対策の) 休館中にできることとして、誰もが利用しやすいユニバーサ

ルデザインをめざした。

委員 電子図書館の利用者が大きく増えており、学校図書館との連携の可能性も探りたいところだが、利用者の年代は分析されているのか。

事務局 利用状況のデータが年代別ではなく、具体的には把握できていないが、現在の蔵書内訳を鑑みるに、児童書は多くないので、子どもが多く利用したかどうかは不明である。

委員 小中学校でのIT化が進む中、タブレットがあれば子どもも電子図書館を利用できると思う。

委員長 大学では、コロナが怖くて通学できない学生を対象に、対面授業の様子をオンラインでも配信するハイブリッド型の授業を実施している。大学生でも電子図書館が利用できれば、レポート作成等に役立つと思う。

委員 利用者のIDに紐づいた情報から、年齢層を分析できないか。年代の傾向がわかれば、どのようなコンテンツを増やすかの判断になると思う。

委員長 一般の本と同様に、電子図書館のコンテンツ（購入）を利用者がリクエストできると良い。

副委員長 大学でも、コロナ対策として、電子図書館のコンテンツを追加で購入している。ただし電子化されている本が限られているので、本を特定しての購入リクエストは難しい面もあるが、ジャンルの傾向は参考になるかもしれない。

委員 文部科学省が、図書館蔵書資料の電子化を検討している。蔵書のコピーを電子化して希望者に送るサービスについても議論しているようなので、(市でも)今後どうするのか考えておく方が良いのではないか。

委員長 複写サービスの電子化は有効かもしれない。

副委員長 従来通り紙のコピーは郵送等で送って良いことになっているが、デジタルデータやFAXでの送信は公衆送信権が関係してくるので、著作権者の承諾または権利団体との取り決めにより著作権者に一定の利益が還元される仕組みがあれば可能となる。既存のコンテンツは出版社がこの条件をクリアして販売しているが、紙の本でしか存在しないものは、商品化されるのを待つ必要がある。

委員長 著作権の問題にはなるが、これだけ議論の対象になっているのは、電子図書館に可能性があるからだと思うので、引き続き考えていきたい。

(2) 令和2年度下半期の事業計画について【資料3】

館長

◎総括

①コロナ対策を優先しつつ、図書館機能の復帰と充実を図る。

- 1) 感染防止環境を配慮した、行事・講座・図書館利用サービスの実施
- 2) 感染状況等を見据え、コロナ後の図書館運用の見直しと対応を検討

② 重点取り組み

- 1) 利用者に優しい図書館（障害者に、高齢者に、お子様に、バリアフリー志向で）の取り組み継続

◎経営目標推進計画

①知と憩いの拠点

【目標1】地域の「知と憩いの拠点」を担う施設であることを認識し、社会教育、生涯学習の支援を意識的に行う。

- ・定例事業、企画事業の実施を継続 ⇒ 郷土史講座、本の修理講座、等の実施
- ・調べる学習の取り組みを実施 ⇒ 三田市地域コンクール実施（審査会・表彰式）
- ・特別展示室の運用 ⇒ 利用の呼びかけを行い、有効活用を目指す。
- ・ボランティア活動の募集 ⇒ みんなで作る図書館、参加者の自己実現の支援。

②高齢者や障害者が利用しやすい環境づくり

【目標2】高齢者や障害者が利用しやすい環境を実現すること。

- ・読書バリアフリー法対応 ⇒ タブレット利用による対面音訳開始に向け、今月中に図書館スタッフと館外間での通信実験を実施する。12月には対面音訳ボランティアに操作方法を習得してもらい、本実施は来年1月を予定している。
- ・電子図書館のコンテンツ充実により、面白さの認知度を高める。 ⇒ 委員会での意見を踏まえ、利用者講習会を後期にも実施したい。
- ・子ども向け青い鳥文庫大活字本を購入する。
- ・キハラ社作成のNDCピクトグラムを書架掲示に導入する。 ⇒ 図書館向け設備、機器を取り扱うメーカーが無料配布している、誰もが分かりやすい知的障害者対応のサインを館内表示に採用する。

③子どもの読書推進、子育て支援

【目標3】子どもの読書推進、子育て支援を目的とした自主事業を積極的に展開する。

- ・読書、図書館への親しみを感じていただき、読書推進、図書館利用の定着を図る。
⇒（おはなし会、手作り講座、ライブラリークイズ、絵本かるた、読書通帳等）
- ・ハニーFM等、メディアを使い図書館の活動を紹介する。
- ・「科学道100冊」展示 ⇒ ウッディタウン分館で11月、本館で12月に実施予定。
中学生・高校生を中心とした層に科学の魅力を多様な視点から伝える。

④図書館員の資質及び業務水準の向上

【目標4】図書館員の資質及び業務水準の向上を目的とした研修を計画的に実施する。

また第三者の実施する研修にも図書館員を積極的に参加させる。

- ・熟練度別の研修受講により、個人スキルアップの推進
- ・本館の図書館運用機能を分館・分室に分散化、多能化 ⇒ 本館中心で行ってきた業務を、できるだけ分館、分室に分散することにより、運用効率アップを図る。

⑤移動図書館業務

【目標5】定期巡回（毎週金曜日）以外に、移動図書館を活用したアウトリーチ事業の充実を図る。

- ・移動図書館「ひだまり」号の定期巡航サービス継続、および、依頼による出張サービスを行う。 ⇒ コロナの影響で高齢者施設への訪問は難しいことから、児童クラブに開催を呼びかける。

⑥その他

- ・本館照明LED化に伴う休館（10月1日～12日）、休館中の青空図書館実施
- ・図書館30周年記念事業の実施（11月1日～30日） ⇒ 30年のあゆみ展示、お祝いメッセージ、よみくじおみくじ、ボランティア活動紹介パネル展、しおり配布、

ライブラリークイズ

- ・リサイクルブックフェアを分散実施（雑誌 11 月、図書 2 月予定）
- ・令和 2 年度図書館アンケート実施 2 月予定

委員 図書館事業の周知はどのように実施されているか。

館長 市広報紙「伸びゆく三田」に掲載している。

委員 人によって、情報を得るジャンルが異なるので、できるだけ幅広く広報の手法を取り入れていただきたい。

館長 広げられるよう手法を工夫する。

委員長 広報紙のデータは、三田市のホームページには掲載していないのか。

事務局 広報紙は市のホームページに掲載している。また図書館独自のホームページのリンクを市ホームページに掲載している。

委員 ホームページは、先ず何らかの告知で知った情報を探して見るものなので、前段の幅広い周知は必要だと思う。先ほどの意見にもあった年齢層などが把握できる入館者管理をするために、マーケティングシステムを導入すれば、広報のターゲットも絞りやすくなるのではないか。

委員長 図書館のツイッターはあるか。

分館長 SNS の実施を検討中。現時点ではない。

委員長 三田市の公式ツイッターはあるか。

事務局 フェイスブックはある。

委員長 図書館のインスタグラムは、珍しい蔵書など情報ネタが多くあると思う。

委員 市役所などの公的機関の SNS は、無選別には書けないので難しい部分もある。

委員長 発信しなければ情報は伝わらないので、どのように発信できるかを考えるべきである。今後の広報、広聴の検討課題としたい。

委員 ラインでも PR できる。

委員長 指定管理者のほうが、柔軟に対応できるかもしれない。

委員 良い事業を展開されているので、広報しないと、もったいないと思う。入館者数はどのような方法で調べられているのか。

分館長 入口に設置している計測器で、人の往復を 1 回として計測している。

委員 計数だけなので、年代等は不明ということと理解する。

委員 コロナの影響で学校と図書館の連携が例年どおりにはできなかった。移動図書館の活用などを考えていきたい。学校図書担当と市立図書館スタッフとの連携も深めたい。

委員長 コロナでの、おうち時間は読書のチャンスと捉え、推進キャンペーンをしても良いと思う。学校図書館との連携の中でも、考えていただきたい。

委員 以前は学校図書担当だけだったが、5、6年前から学校司書も各校を巡回しているので、図書館との連携はより重要になってくる。図書館の選書においても、学校で使う本を多く購入するよう要望を伝えていきたい。

委員 生徒にタブレットが配られると聞いたが、このタブレットで電子図書は読めるのか。

委員 使い方にもよるが、授業で読むことができても、学校から持ち帰ることはできな

い。今後、もしコロナで臨時休校などの事態になれば、家にお持ちの PC などを使ってオンライン授業ができるよう準備を進めている。

委員 ここ（委員会）で聞かなければ知らなかった情報も多いので、広報の難しさを感じている。3月、4月はコロナで子どもたちが暇を持て余し、ゲームやテレビで過ごさせてしまったが、電子図書館があることを後から知った。最近図書館を訪れ、改善されていると感じることが多いので、広報にも期待している。図書館は高齢者が出かけるには良い場所なのだが、外出を控えがちな高齢者に、何か届けられるものがあればと思う。

委員 市立図書館と学校図書館は、蔵書のあり方を、どのように住み分けているのか。選書の基準は異なるのか。

委員 学校図書館の蔵書は各学校が選書し購入している。

委員長 学校図書館は子どもたちが使うので、学校で必要な本を選んで買っている。市立図書館は、広く市民が使うので扱いが異なる。

委員 市立図書館の事業でも子どもの読書推進には取り組んでいるので、重複する部分はどのように調整されているか。

委員長 学校図書館の児童向け選書基準はあるか。

分館長 市立図書館には収集方針があるので、その基準に沿って子ども向けの本も収集しているが、学校図書館とは異なると思う。

委員 子どもの読書推進で考えると、学校図書館と市立図書館で大きな違いはあるのか。

委員長 学校図書館の収集目的は、授業で使うためのものか、それとも子どもたちが自由に読みたい本を並べるものか。

委員 一般的な児童書だけでなく、調べ学習用や百科事典など多様なジャンルを、まんべんなく揃えるようにしているが、購入できる冊数は学校の規模により異なる。特定の本を買うよう定める基準はない。

委員 学校が進める読書推進と市立図書館の取組みは一緒か。

委員 子どもたちに、たくさん本を読んで欲しいという点では同じだが、必要とする本は少し異なる。例えば平和学習のための本が、学校図書館の蔵書だけでは足りない時などは、市立図書館に相談して、まとまった数を団体貸し出ししてもらおう。必要な時に蔵書の多い市立図書館を利用させてもらっている。

委員 借りる立場の子どもたちからすれば、学校図書館と市立図書館をどう区別して利用しているのだろうか。

委員 毎日でも本を読みたい子どもは、学校図書館で借りた上で、土日は市立図書館でも借りている。逆に読書に興味がない子どもは、学校図書館すら利用しない。

委員長 学校図書館の蔵書で足りない分を、市立図書館との連携でどのように対応していくかが大切だと思う。

副委員長 イベント参加者の中で、コロナ感染者が発生した場合、濃厚接触者への連絡が取れるよう、参加者名簿は残しているか。

館長 名前と連絡先を記入していただき、記録している。

委員長 連絡が取れる体制ということで理解した。生涯学習カレッジはコロナの影響で実施できていない状況だと思うが、資料の中の目標では「社会教育・生涯学習の支援

を行う」としている。カレッジの学生に対し、図書館として何か提案できることはないだろうか。今は事業計画の内容が生涯学習の趣味の分野に偏っているように思うので、例えば今後の生き方に焦点を合わせた本を揃えてみるとか、カレッジで実施が止まっているカリキュラムのテーマに沿った本を図書館で貸し出すこともできるのではないか。他にも各市民センターの講座等との連携も考えられる。図書館にはニーズを捉えたハブ（中核）になってほしい。様々な人が図書館に集って学ぶ場になれば良いと思う。

委員 コロナの第3波を想定し、冬の換気はどうするか。

館長 夏場に行っていた開放したままの換気方法を変更し、現在は冬の換気として2時間間に一回、10分以上の換気を実施している。

委員 ブックシャワーの利用は、月あたり8万冊の貸し出しに対し6千件となっているが、利用を増やす工夫は考えているか。

館長 コロナの影響で利用率は増えてきている。

委員長 新型コロナウイルスへの有効性はどうか。

館長 コロナウイルスへの効果は不明なので今は「消毒機」ではなく「除菌機」と表現している。

委員長 せっかく設置しているのだから、もう少し利用を促しても良いと思う。藍分室には設置していたか。

館長 藍分室には設置していない。

委員長 三田の市立図書館は、ブックシャワーや電子図書館など、他自治体での事例が少ない事業に先進的に取り組んでいるのだから、もっとPRすべきだと思う。事業計画については、総じて高評価の意見が多かったので、多方面との連携も視野に、前向きに取り組んでいただきたい。

(3) 施設修繕について

事務局 <令和2年度実施予定の修繕について進捗報告>

図書館本館の照明設備のLED化、放送設備の改修工事については、10月1日から12日にかけて実施した。これによりH28年度に先行で一部実施していたLED化と合わせ、全ての照明の改修が完了した。外壁修繕と電話システムの更新については、現在、事業者と調整を行っている。

委員長 全館LED化により、明るさも改善されたか。

館長 明るくなった。

委員長 外壁の修繕については、以前タイルが剥がれたという報告があったと思うが、大丈夫か。

事務局 点検調査を行い、近日中に該当箇所の修繕を実施する。

委員長 利用者の危険がないよう注意して進められたい。

4 協議事項

令和2年度モニタリングの重点項目について【資料4、5】

事務局 委員の皆様には、資料5のモニタリングシートにより、図書館の評価を実施していただきたい。昨年度から、このモニタリング項目とは別に重点項目を定め、特に重点的に評価を行っていただいている。今年度の重点項目検討のため、事前に委員の

皆さまにアンケートをお願いした。資料4にご意見を取りまとめているので参考に、ご協議賜りたい。

委員長 資料4に、委員の皆様からいただいた重点項目の候補が4つ挙げられている。レファレンス等の基幹業務、ITを活用した図書館サービス、子どもの読書活動推進、ボランティアとの協働、他に質問として「評価項目が経営目標に基づいているのならば、なぜ委員全員の統一項目を設定する必要があるのか」というご意見もいただいているが、特に強調して評価したい重点項目を定めるものなので、ご理解をお願いしたい。4つのテーマから選ぶ重点項目については、どのような評価方法を想定しているのか。

事務局 モニタリングシートには評価点記入欄以外に自由記述欄を設けているので、ここに重点項目についてのご意見を記入いただきたい。

委員長 委員の皆様には、点数だけで評価できないものを、自由記述欄で文章にて表現するのが重点テーマと共通理解していただきたい。

委員 私は基幹業務について確認したいと思いアンケートに答えたが、現地で評価シートの項目すべてを評価するのは、かなり頻繁に訪れないと難しいと感じている。週末ぐらいしか現地訪問の時間が取れないので、基幹業務のチェックなら可能と考えた。

委員長 評価に関しては、委員会の報告資料から判断するのも方法の一つであるし、現地に赴いて受ける印象も評価と言えるので、必ずしも運営状況を全て把握する必要はないと考える。

委員 モニタリングシートの評価項目には、基幹業務と、子どもの読書活動推進の項目は多数あるが、今日話題に上った電子図書館については一つしかない。またボランティア団体との協働の項目はあるが、図書館ボランティアについては触れられていない。よって、この2点のどちらかを選ぶと良いのではないか。

委員長 項目が少ないものを補強する形で重点項目を選ぶということか。

委員 電子図書館は注目されている。

委員長 先ほどの上半期報告でも電子図書館に意見が集中していたので、これを踏まえITを活用した図書館サービスを選んではどうか。

委員 コロナ禍では危機管理が重要と考え、基幹業務をテーマ候補と考えていたが、この状況で利用度を上げる方法として、ITの活用は図書館の活性化に役立つと思う。

委員長 資料には「ITを活用した図書館サービス」とあるが、他の手法も考えられるので「非来館型図書館サービス」としてはどうか。委員として評価するというよりもアイデアを出すイメージになるが、良いか。

事務局 現場でもコロナ禍を意識していかなければならないので、具体的な提案はありがたい。

事務局 非来館型は下半期に重要なテーマなので、指定管理者の取組みに対する評価に加えて、新しい提案もいただければと思う。

委員長 例えば電子図書館をどう広報するか提案もあるかもしれない。それらも含めて令和2年度の重点テーマは「ITを活用した図書館サービス」とし、ITを活用しない非来館型サービスもあれば提案していただきたい。移動図書館の活用なども考えられる。

5 その他

モニタリング評価シートの提出について【資料5】

事務局 資料5の評価シートにより、各評価項目について4点満点（優れている：4点 適正である：3点 やや劣っている：2点 劣っている：1点）で評価していただく。シートの最後に、自由記述欄を設けているので、重点項目やその他についてもご意見をいただきたい。モニタリングシートの提出は、令和3年3月末までに、文化スポーツ課（本庁舎4階）にご持参いただくか、郵送またはEメールにて送付をお願いする。

事務局 補足として、委員の皆様は図書館の運営について評価いただく立場にあるので、一般利用者の目線に加え、更に踏み込んだ視点でのモニタリングをお願いしたい。疑問点があれば事務局や図書館に直接申し入れていただければ対応する。

委員長 分からない点があれば、必要に応じてカウンターで直接聞けば、対応していただける。

事務局 次回第3回の委員会の開催は3月を予定、後日開催通知を送付する。コロナの影響で予定通り開催できない場合もあるので、ご承知おき願いたい。

閉会

19時48分